

[特集]
近畿大学インターナショナルサイエンスコース
2016報告書
 藤井 政幸
 (近畿大学大学院産業理工学研究科長)

プロジェクト採択の経緯

平成28年5月27日「教育改革・学生支援プロジェクト助成補助事業」の募集案内を受けて、同6月10日申請書を提出した。5月31日素案を基に各専攻幹事宛にメールにて計画への参加の可否を打診。事前に口頭で事務部へ日程、宿泊所、参加者募集、受け入れ体制などについて打診、申請の内諾を得た。6月16日専攻幹事会承認。7月2日研究科会議承認。

プロジェクトの目的

東南アジアを中心とした途上国の人材育成、国際貢献、当研究科への入学者増、当研究科在学生の国際的コミュニケーション能力向上などを目的として、海外からの学生向けの科学トレーニングを行う。当研究科に4つのトレーニングコース (Chemistry & Biology, Electronics & Computer Science, Design & Architecture, Business Management) を設け、大学3年生以上と大学院の学生および

大学卒業はまた修士修了の社会人を合計20名受け入れ、日本語と専門分野の実践的な教育を行う。期間は3月中の2週間とし、月曜日から金曜日は午前中に50分×3時間 (日本語1時間、専門科目2時間) の講義、午後は実践的な研究、実習を行う。また、休日を利用して、地域住民と交流したり、日本文化に親しむプログラムを企画する。当研究科の研究内容に触れ、また教員や学生とコミュニケーションをとり、当地の住環境に慣れることで、当研究科への入学に対する不安を除き、入学を促進することを狙いとする。また、本研究科の学生にとっても国際的な感覚を身につける絶好の機会となる。

プロジェクトの特色・独創性及び期待される成果と意義

語学研修とサイエンストレーニングを組み合わせたイニシエーションプログラムであり、本格的な日本への留学を促進するための準備段階的なものである。日本と距離的には近い南アジア諸国の若者にとっても、言語、宗教、文化、生活習慣、国民性など、日本留学に対する不安は大きいと推測できる。まずは気軽に短期間日本で生活し、専門分野の知識、技術を修得することを体験することでその障壁を軽減することを狙いとしている。本研究科への入学者増、国際化に貢献するとともに、近畿大学全体のプログラム

へと発展できればその意義はさらに拡大すると期待できる。その上で、将来は文部科学省等が募集する教育関係外部助成資金に応募することを想定する。

内外の関連する取組と当該プロジェクトの位置づけ

前述のとおり、国家的な取り組みとして大学の国際化、グローバル人材の育成の重要性が強調されている。グローバル30に採択された13大学は平成22年度より、海外での進学説明会やセミナーを開催し、英語による講義などのカリキュラムを整備して、多くの留学生を受け入れている。海外ではそのような取り組みが以前より重要視されており、日本は立ち遅れていると言わざるを得ない。近畿大学でも積極的に外国人教員の採用や留学生の受け入れを行うべく施策が講じられているが、未だ十分とは言えず、本研究科が大学全体の体制づくりの先駆けとして、必要な制度やシステムの基礎を構築し、実践的な視点から問題点を洗い出して、発展的な将来構想につなげたい。

当初計画

- | |
|---|
| (1) Chemistry & Biology (2) Electronics & Computer Science (3) Design & Architecture (4) Business Management |
|---|

募集は各コース5名、合計20名。対象は大学学部3年生以上、大学院在学中、大学卒業または修士修了社会人。期間は2週間。月曜～金曜午前中講義50分×3コマ/日。日本語1コマ、専門科目2コマ/日。合計日本語10コマ、専門科目20コマ。専門科目は1科目あたり2コマとして10科目。サイエンストレーニングを月曜日～金曜日の午後各4時間開講し、専門分野の実践的トレーニングを行う。そのため材料消耗品費として年40万円計上している。土曜日、日曜日はエクスカッション、文化交流。講義はすべて英語で行い、専任教員が担当する。各講義、演習には大学院生がTAとして補助する。

(時給2000円)その際の大学院生アルバイト料28万円をプロジェクト経費として計上している。

スケジュール…3月第1、2週

| |
|-------------------------------|
| 第1日(日):レセプション、教員紹介、施設見学、市内見学。 |
| 第2日(月)～第6日(金)、第9日(月)～13日(金) |
| 9:00-9:50 日本語 |
| 10:00-10:50 専門科目 |
| 11:00-11:50 専門科目 |
| 13:00-17:00 サイエンストレーニング |
| 第7日(土)、第8日(日) エクスカーション、文化交流 |
| 第14日(土):フェアウェルプログラム |
| 第15日(日):出発 |

参加者の募集

学術連携協定締結大学(虎尾科技大学、タイゲン大学、東西大学(韓国)、Hasanudin 大学(インドネシア)、ハノイ国家大学(ベトナム)、マレーシア工科大学(マレーシア)、マレーシア日本国際工科大学(MJIT)(松崎先生経由)、ハノイ工科大学、ハノイ法科大学(日本語学校講師山田博之氏経由)等に国際交流委員会(委員長肥川先生)、荒川前学部長、学生支援課松尾氏を通じて募集の案内を送付。同時に、大学院ホームページに募集要項、申込書式をリンク。

申し込み受付と応募者への連絡は松尾氏が担当。

実施報告

平成29年2月1日～6日にKindai International Science Course 2016を実施した。当初の募集は20名であったが、60名近い応募があり、できるだけ多くの参加者に当研究科への入学を動機づけたことから、参加者を28名とした。実施期間については、2月22日までに予算執行を終える必要があることや学内の行事日程、アジア諸国の大学のカリキュラム、春節等を総合的に考慮して2月1日～9日とした。また、当初の予定では15日間のスケジュールを組んでいたが、宿泊所の確保、およびその経費などを勘案して9日間のプログラムとした。結果的には充実した内容を盛り込んだ最適な日数であったと考えられる。

参加者28名、内訳…台湾12名、中国7名、タイ1名(以上虎尾科技大学)、ベトナム6名、インドネシア2名。

補助学生…在学留学生6名(内2名は就労資格なくボランティア)、日本人学生1名、専門プログラム補助生物環境化学科1名、建築学科6名。

宿泊所…2月1～9日(4日除く)筑豊ハイツ、2月4日のがみプレジデントホテル

実施概要

2月1日 空港での迎え、宿泊所への入所

金子アドバイザー、山田博之氏(ベトナム学生引率)、松尾祐介、末永沙織(学生支援課)、藤井政幸、在学留学生6名(内2名は就労資格なくボランティア)、日本人学生1名

2月2日 9:30～16:20

9:30～10:00 オリエンテーション

10:00～11:00 必須日本語

11:00～12:30 講演会 山田博之氏(VINACOMベトナム国際投資株式会社勤務、

日本語講師)

司会…藤井政幸、通訳…于靖暉、邱俊彰

聴講者…45名



日本語で自己紹介



山田博之先生講演会

13:30-16:20 専門課程プログラム

生物環境化学コース：研究室紹介森田教授、神武准教授

電子通信工学コース：Practical Raspberry pi programming (白土、江崎)、3D Modeling with 3D Printer (森)、3D Modeling by PhotoScan Software (森)

社会環境科学コース(ビジネスマネージメント)：Team building (長谷川直樹、坂田)、Lecture 1 (近大亭等、経営ビジネス学科の取り組み、日高)、Workshop 1 (Research Planning、河、飯島)

10:00-17:00

社会環境科学コース(建築・デザイン)：

バスにて北九州市内建築物見学、TOTOMミュージアム、小倉城、リバーウォーク等
津田教授、堀英祐講師、補助学生2名

内容：

参加メンバーは、虎尾科技大学の6名。10時に本校キャンパスを出発し、小倉城に11時に到着。小倉城とリバーウォークを13時まで自由行動し、13時10分にTOTOMミュージアムに向けて出発。TOTOMミュージアムでは、ツアーガイドによる案内で、16時まで見学。留学生たちは非常に興味をいだいたようで、ツアーガイドに積極的に質問していた。その後、疲労感が大きかったようなので、筑豊ハイツに向かった。筑豊ハイツ着は17時。本ツアーでは、中国語と日本語を話せる台湾からの留学生(来年度、本科に進学予定)に大いに助けられた。

2月3日 8:00-17:00 工場見学
サポーター：藤井政幸、在学留学生6名、日本人学生1名
通訳：藤井政幸、于靖暉、邱俊彰
8:00 筑豊ハイツ出発
9:30-10:40 株式会社シャボン玉石けん
13:35-15:00 株式会社トヨタ九州自動車宮田工場
17:30 筑豊ハイツ帰着



シャボン玉石鹸見学



トヨタ自動車九州見学

2月4日 福岡市内見学 10:00-17:00

松尾祐介、藤井政幸、在学留学生6名、日本人学生1名がガイドしてJRを利用して博多、天神周辺を案内。福岡市の繁華街、歴史的建築、住環境を紹介。

2月5日 休日

参加者は宿泊所で休養、福岡市内の見学など自由時間を過ごした。



博多駅前にて



宿泊所筑豊ハイツにて



日本語クラス



Business Management Workshop

2月6日

9:30-10:20 日本語教室

藤井政幸、在学留学生6名、日本人学生1名

10:30-12:20、13:30-16:20 専門課程プログラム

生物環境化学コース：研究室紹介森田教授、岡准教授、菅野教授、湯浅講師、大貫准教授

電子通信工学コース：Robot control with Arduino (平野) / 3D Modeling with 3D

Printer 2日目 (森) / 3D Modeling by PhotoScan Software 2日目 (森)

社会環境科学コース(建築・デザイン)：International Workshop in Izuka まちあるき

編(金子、益田、小池+補助学生：大学院生2名・4年生3名、協力：建デ4年林祐逸)

内容：本コースでは、学生同士の交流を主たる目的とし、『飯塚本町商店街を楽しむ』をテーマにワークショップを行った。最初の1時間で自己紹介、チーム分けおよび飯塚を紹介するオープニングレクチャーを行った。その後、飯塚本町商店街へ向かい、

飯塚本町商店街↓東町商店街↓嘉穂劇場↓千鳥屋本店の順番でまちあるきを行った。その後大学へ戻り、チームに分かれて次の日のプレゼンテーションに向けて、ディスカッションを行った。

社会環境科学コース(ビジネスマネジメント)：Lecture 2 (Experimental Design method and estimation) / 太田、坂田) / Fieldwork (河、飯島、太田、坂田、長谷川徹

日高)

2月7日

9:30-10:20 日本語教室

藤井政幸、在学留学生6名、日本人学生1名

10:30-12:20、13:30-16:20 専門課程プログラム

生物環境化学コース：研究室紹介藤井教授、河済教授、田中教授、松本准教授

電子通信工学コース：Introduction of discharge plasma and their application (喜屋武) / 3D Modeling with 3D Printer 3日目 (森) / 3D Modeling by PhotoScan Software 3日目 (森)

社会環境科学コース(建築・デザイン)：International Workshop in Izuka プレゼンテーション編(金子、益田、小池+補助学生：大学院生2名・4年生3名、協力：建デ4

年林祐逸)

内容：昨日のまちあるき及びディスカッションを踏まえ、プレゼンテーションに向けてチームでの作業を続けた。15時より予定通りプレゼンテーションの発表会を2327

製図室にて行った。そのあと、お菓子とジュースを買ってきて打ち上げパーティを行い、より親睦を深めた。

社会環境科学コース(ビジネスマネジメント)：Workshop 2 (Presentation) / 河、飯島



安川電機未来館見学



新日鐵住金八幡製鉄所見学



Design & Architecture Workshop



産業理工学部3号館にて

2月8日 8:00-17:00 工場見学
 サポート・藤井政幸、在学留学生6名(内2名は就労資格なくボランティア)、日本人学生1名
 通訳・藤井政幸、于 靖暉、林 竝逸
 8:00 筑豊ハイツ出発
 9:30-11:30 新日本製鐵住友金属株式会社
 15:00-16:40 安川電機株式会社
 18:10 筑豊ハイツ帰着

2月9日 9:00)

チェックアウト、空港、博多駅までの見送り

藤井政幸、在学留学生6名(内2名は就労資格なくボランティア)、日本人学生1名

本プロジェクトと関連した今後のプロジェクト計画

平成29年度は9月5日-10日に同プログラムを計画している。インドネシア18名、ベトナム3名、スーダン1名が参加する予定である。30年度にも教育改革・学生支援プロジェクト助成金が得られれば、是非とも同様のプログラムを実施したい。平成28年度の本プログラム実施により、南アジア諸国の若者にとっての言語、宗教、文化、生活習慣、国民性など日本留学に対する不安を取り除き、本格的な日本への留学を促進することができる実感できた。また、日本の大学院で学びたいという強い熱気と留学を支える経済的な基盤も整いつつあることも確認できた。実際に、今回の参加者のうちの2名は当大学院への受験を表明して、手続きを進めている。まずは、平成25年度以降入学定員を充足できていない本研究科への入学者増を図るべく、早速に海外からの学生募集体制、入試システムとカリキュラム整備、経済支援策、学業支援策、生活支援策の強化を図りたい。学生募集促進のためにまた、海外からの短期留学プログラム(インターンシップ制度)を設置して、より多彩な留学制度を整備していく。学生募集の体制強化策としては日本学生支援機構主催「日本留学フェア」に参加するとともに、各国の大学の国際交流関連部署、現地日本語学校、在日日本語学校との関係を深め、より多くの海外の大学との包括的連携協定を締結することにより、学生および教員の交流を盛んにし、教育、研究の連携を推進する。その上で、当研究科としての国際貢献、グローバル人材育成を促進する。将来は文部科学省等が募集する教育関係外部助成資金に応募して、規模を拡大することを目指す。

さらに、国内では2020年を目途に30万人の留学生受入れを目指す文部科学省支援国際化拠点整備事業(グローバル30)には国立7大学、私立6大学、計13大学が採択され、国際競争力強化が図られている。近畿大学としても留学生受け入れ態勢を強化し、留学生数の増加を図り、国際競争力を向上させることは急務と考えられる。また、政府主導でロシア、ベトナムとは重点的な経済、学術面での関係強化が推進されており、本プロジェクトから得られた成果を基礎として、研究科としてより発展的に貢献することを目指す。